

## 「私の戦争体験」

昨年（2020年）12月末、佐世保市にお住まいの組合員、福本昭代さんより「私の戦争体験」としてお手紙をいただきました。4月に佐世保のララ花高（組合員集会室）で福本さんに取材をお願いし、幼少のころに経験した戦争体験と、早岐の「長崎原爆犠牲者之墓」という墓碑のことについてお聞きしましたので、いただいたお手紙と合わせて組合員の皆さまにお伝えいたします。



福本さんからのお手紙

### <私の戦争体験>

私は佐世保市栄町で生まれ（現在の佐世保玉屋付近）3歳まで住んでいました。佐世保大空襲（1945年6月29日）前に、早岐の伯父の家へ疎開しました。疎開した早岐で夜中に空襲警報がなり、起こされ、防空壕に逃げるために洋服を着せられた暗闇の出来事をうっすら覚えています。

1945年8月9日、長崎に原爆が落ち、多くの死者と被災者が出ましたが、被災され傷をおわれた方々が汽車に乗って早岐にも避難して来られました。最近になって、当時のことを同級生に話したら、お父さんが国鉄で列車の機関士をしておられ、長崎から早岐まで被爆者を運んだ経験があるとのことでした。長崎から早岐に運ばれた被爆者は、早岐国民学校（現在の早岐小学校）に搬送されました。母は介護するために早岐国民学校へ出かけました。その場のことについて、母はほとんど話してくれませんでした。

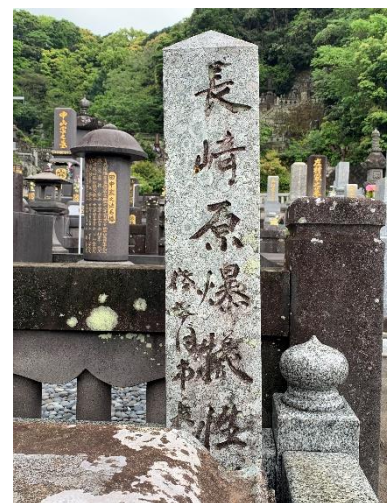
早岐に“徳丸”という墓地があります。そこには、原爆で早岐国民学校（現在の早岐小学校）に避難してこられ快方することなく亡くなられた被爆者のお墓があると聞きました。しかし、今年の夏（2020年）捜すことが出来ませんでした。

戦後は、田舎の方（崎岡町方面）にお米を買い出しに母と歩いて行っていました。早岐に疎開する時、持ってきた母の着物とお米や芋を物々交換し配給だけでは足りない食物を補っていました。しかし、白ご飯は特別な時だけ食べており、普段は麦ごはん、おやつはお芋ばかりの日々でした。

（※被爆直後の長崎市に駆けつけ、原爆によって負傷した人々を手当てのために市外に運んだ列車は「救援列車」と呼ばれています。救援列車は4本走り、およそ3500人の負傷者を諫早、大村、川棚、早岐などに運んでいます）

### <早岐の徳丸墓地（陣の内町）にあった長崎原爆犠牲者之墓>

佐世保市の早岐駅でも、原爆投下の翌10日以降、多くの被爆者が降ろされ手当てを受けたとされています。当時、警防団の分団幹部として早岐で被爆者の救護活動に携わっていた杉竹茂雄さんが、亡くなった身元が分からない9名の被爆者のことを想い杉竹家の墓地に埋葬し供養されました。のちに「遺族に代わって弔いたい」と市長に題字を頼んで1953年に建てられたものです。その後、同家の家系が絶えたため1994年、お孫さんに当たる初瀬和敏さんが佐世保市八幡町にある西方寺の初瀬家の墓地に移され供養を続けています。



長崎原爆犠牲者之墓

### —福本昭代さん取材レポート—

福本さんは、今でも世界では争い事が起きていることを憂い、「戦争のない世の中にしないといけない」と、そのような世界になることを願い、今回寄稿して下さったそうです。そして、「戦争になると当たり前前の生活ができなくなる。そのことを子どもたちに伝えたい。長崎から遠い早岐にも原爆の史実があることを伝えることで、身近に感じてもらえるのではないのでしょうか」と平和への想いも語られました。